

特集

スポーツNPO座談会

スポーツでまちづくり！

スポーツを通して見えてくる地域住民とのつながり

- ちょっと気になる、いしかわのNPO
NPO法人 ふるさと小松検定

シリーズ

NPO会議術②

『会議の土俵をつくりましょう』

いしかわのNPO

NPO法人 石川県茅葺き文化研究会
能登復興いやさかフォーラム

- ジュニア VOICE
学生ノートック

- 書籍紹介コーナー

- インフォメーション
・ 県からのお知らせ
・ 助成金ニュース

つながる、
ひろがる、
ふれあう。

スポーツを通して見えてくる 地域住民とのつながり



「健康」「美容」「子供の体力づくり」、「仲間づくり」といろいろな面でスポーツに関わる人が増えています。今回は内灘、かほく、そして金沢、それぞれの地域でスポーツ振興に関する活動をしているNPOの代表の方に、現在の取り組み、また今後の活動などについて話し合っていました。

行政と地域が協力し合って

クラブ立ち上げの背景について教えてください。

●**館** 平成14年度から検討をされていて、初めの呼びかけは行政に、次は体育協会やスポーツ少年団などで検討していただきました。当時一番の問題だったのが体育施設の利用状況でした。スポーツクラブを立ち上げても何もできないくらいにうまってる状態でした。そこで行政より『ブラッツに認められた団体は体育館の使用料を無料にしましょう』という働きかけをしていただいたので、皆さん入ってくださったという感じです。スポーツ振興に対しては行政と自分たちの思

いが同じで『では、一緒にやりましょう!』ということになりました。

●**西村** うちが『地域住民主導でやっていこう!』ということで動き出しました。まず、核になっているリーダー（今はゼネラルマネジャー）が、一地域住民として各関係団体に呼びかけをし、行政に話を持っていった時に、『いずれはやっていかなければいけない』と思っていた行政との間に合致があってスタートしています。そのときは助成金と補助金が少し入っているんですけど、内容的には、それまで行政がやっていた親子登山やスポーツ教室の事業も含め、いくつか基礎となる教室展開をクラブに移行していきました。そこに今はプラスアルファで新しいプログラムを合わせて

スポーツ振興を図っているというのが現状です。

スポーツに 携われる環境づくりを

●**徳永** 自分の子どもでも、スポーツ少年団へなかなか参加できるようでできない環境がけっこう多く、親の負担がものすごく大きいんですよね。やりたい競技が近くにないと全然できないという環境をマジマジと見ていて、**たくさん子どもたちが楽しくスポーツできる環境を各エリアで広げられたらいいね**という思いですね。各地域、エリアにスポーツ教室の拠点を増やすことによって、年齢は小学生から高齢の方々までスポーツに携われる環境をたくさん作っていきたいですし、スポーツの振興の基礎を金沢でもっともって広げていかなければいけないかなと思いました。

●**館** うちが指定管理者として去年の7月から総合体育館と総合グラウンドの管理を行うことで、管理者側と利用者側の立場で見れるようになった事が大変良かったと思います。ただ、両施設とも昼間は内灘中学校の体育の授業と部活で埋まっているのが現状で、そこはなんとか中学校側のご理解をいただきながら幅を広げていきたいと思っています。内灘町の行政がうちのスポーツクラブに対して大変理解を示してくださって今後のスポーツ振興に関しては全て任せたいという意向もありますので、いい形で動いていると思います。また施設自体はかなり老朽化していて修繕費がかかりますが、町のほうでもバックアップしてくださるので心強いです。問題は、それがずっと続くかっていうのは『?』マークなので今後どのように資金を調達していくかっていう事と、あと体育館はあってもスタジオがないことが今後解決して行かなくてはならない課題です。

新たな スポーツ人口を掘り起こす

●**西村** 既存の活動に対してのためのスポーツ振興も大切ですが、**新たなスポーツ人口を掘り起こしてもっとたくさんの方がスポーツを楽しめる環境を作ることがスポーツ振興として面白い**のではないかなと思うんです。『市民や地域住民が自分たちのやりたいものを自分たちで考えて自分たちで負担をしながらス

ポーツできる環境を作っていく、そこにクラブやNPOをやっている我々がどんなふうに関わり、お手伝いできるか』が大事じゃないかなと感じています。

事務局とボランティアの関わりについてはどうでしょう?

●**西村** 最初パートさんもない状況から、全員ボランティアで力を出し合っていました。そのうちパートさんが1〜2人入って、4年目にマネジャー1人、パート2人の3人体制が1年続いて、次の年に指定管理を受け専従が増えたときに、ボランティアの方がいなくてもやれることが増えてきたんです。組織も大きくなってやることも多いとスピード感が必要なので月に1〜2回のボランティアの人達を待ちきれなくなって。ボランティアの形態がそれまでの運営・企画から「イベントのお手伝い」になりかけて、ボランティアの方にどう関わってもらえるかが難しくなりました。現在は事務局で動かすものもありながら、新規の事業はボランティアの方が企画から関わってゆっくり進めていく事業もやりましようと考えています。

●**館** 私達も専任のマネジャーがいたほうがいいとは思いますが、けどその方に任せてしまうと逆に皆手を抜いてしまうので、『今はまだ皆でやっていこうね!』って言ってます。





スポーツ振興の基礎を
金沢で広げたい

指導者とこれからのスポーツ振興についてはどのようにお考えですか？

●西村 活動している会員さんを“お客さん”と見てしまうとそこまでなんですけど、そこを“仲間”にできるかどうか。例えば、夏休みに小学生向けの預かり事業みたいなのをやって、朝から晩まで子どもたちを預かりキャンプへ行ったりお寺に泊まりに行ったり料理教室をしたりしますが、その料理教室のスタッフがいないときには体操教室の方々に『子どもの料理を教えてもらえませんか？』って言ったらレシピを作ってくれて、畑も提供してくれて芋堀りまでさせてもらったんです。地域の人達があるときは会員、あるときは指導者になってくれるんですよ。

●館 体協・スポーツ少年団の指導者っていうのは『自分が選手をやっていたから・・・』『自分も教えてもらったからお返しをしましょう』というような感じで地域の方がかなり指導者として頑張ってくださいしています。ただ最近では世代交代がありまして、指導者がいないという期間が生まれることを懸念しています。あとは突発的に『エアロビの先生を紹介して下さい』とか、『新しい種目の先生を紹介して下さい』と言われると、『ちょっと待ってね』とそこから探し始めることとなりますから時間がかかります。競技の指導者はいるんですけど、今流行のボクササイズなどのスタジオレッスンの指導者がいないというのが現状で、新しいメニューに対して対応できないんです。レッツさんのようにインストラクターに対して時間給でお願いできたらいいんですけど・・・。

●徳永 『各地域のリーダーが指導者となって子ども

たちを教えていき、地域の中で更に指導者が生まれ、順々に面倒を見ていってる』というシステムはいい形になっているのかなと思ってる反面、当クラブマネージャーは一人でコーチもしているのでフラフラになっているのが悩みどころで、これから組織の見直しをしなければと思っています。現在、陸上の専門の学生が出てくれる環境を作っているんです。「かけっこ塾」も学生を中心にやっていて、学校との連携っていうのは金沢の特色としてできるように思います。

●西村 スポーツっていうと汗かいて大変で、疲れるってイメージもあるんですけど、今は美容だったり、ダイエットだったり、子どもの体力づくりだったり、仲間づくりだったり、教育だったり、いろんな切り口があって、スポーツを通していろんな地域のことが見えてきます。スポーツを一つのキーワードにして、地域の中の横の繋がりを考えることができます。スポーツは分かりやすく、オリンピックがあるとスポーツしない人でもその話で盛り上がったりしますよね。僕は、サッカーをやっていたんですが、地域づくりとか社会貢献に興味があって、スポーツを通して人が集まり、いろんな人が関わりあうきっかけとしてスポーツってすごくいいテーマだなあと感じているんですよ。だからクラブ間でもオープンにして指導者の人材の交流などの繋がりができてくれればいいかなって思います。

スポーツ振興の活動を通じて、これからの目標や希望などお聞かせください。

●徳永 本当に歩き出したところなので、まだ何をどう進めるべきかを模索中ですが、ただこういうものができたことで、『何しているんだろう？』って興味をもつ



やっぱり地域を
大事にしていきたい

て見始めているのは間違いないかな？地域の中で一生懸命やっている方にお声をかけたら皆さん寄ってこれる環境に今なってきたかなと思います。

●館 私自身この総合型スポーツクラブに関わって、やっぱり地域を大事にしたいという思いが強くなりました。内灘町の職員さんも一生懸命やってくさるので、わたしたちはスポーツの面で何か応援したいという思いです。

●西村 生まれが石川県ではなく、大学から金沢に住んでいたんですけど、自分のような県外から来た人間が地元の人に良くしてもらってるので、“自分がこの地域にどんなふうに恩返しができるかなあ”って思っています。自分自身はNPOの専従職員になって4年ですが、レッツが7年やってきて、ようやくレッツという言葉が地域に広がりつつあります。ただ地元の方々はレッツが総合型スポーツクラブのNPOということは関係ないから「うちはNPOだからいい活動をしているんだ」という押し付けにならないようにしていかなくっちゃと思っています。いろんな人達の意見を聞きながら、NPOやスポーツしている人だけじゃなく、いろんな人にレッツを広げていってもらえるとすごくいいなと思っています。

団体 PROFILE



西村 貴之(にしむら たかゆき)さん
NPO法人 クラブレッツ
クラブマネージャー

●平成16年2月にNPO法人認証
任意団体として平成14年5月18日
から活動。活動暦は7年目を迎える。

●施設／平成18年から宇ノ気中
学校の体育館兼市民体育館でも
ある宇ノ気体育館の指定管理者と
して管理と運営を行う。

●事業内容／いろんなスポーツ教室を開催。大人・子ども合わせて35教室。また体育館の中のスタジオルームを使ってヨガ、エアロビクスや子どものバレーなどスタジオプログラムを週に40本ほど。他に年間を通じ登山・スキーなどいろんなイベントを行う。

●会員数／約1200人

お問い合わせ

石川県かほく市森レ1番地(宇ノ気体育館内)
TEL 076-283-4411 FAX 076-283-4411
E-mail club-lets@po4.nsk.ne.jp
URL http://po4.nsk.ne.jp/~club-lets/

団体 PROFILE



館 順子(たち じゅんこ)さん
NPO法人 スポーツクラブ
プラッツうちなだ理事長

●平成20年3月NPO法人認証
任意団体として平成17年4月から
活動。平成19年度にNPO法人の
設立と体育施設の指定管理者とし
て管理運営を行う。

●施設／内灘町の体育施設と小
学校、中学校を開放していただき、活動中。

●事業内容／アスリート、健康志向、レクリエーション志向ありの様々な協会や少年団、スポーツ団体等全てプラッツに入会していただいております、その94団体がそれぞれで運営しています。

●会員数／現在1927名

お問い合わせ

石川県河北郡内灘町鶴ヶ丘2-308-1
(内灘町総合体育館内)
TEL&FAX 076-286-1231
E-mail info@platz-u.jp URL http://platz-u.jp

団体 PROFILE



徳永 健一(とくなが けんいち)さん
NPO法人 かなざわ総合
スポーツクラブ代表理事

●平成20年8月NPO法人認証
金沢及び近郊の人達のスポーツ
振興や育成を目的に、任意団体と
して平成18年から活動。

●施設／特定の施設はなく、西部緑
地公園、星陵大学陸上競技場、石川
県総合スポーツセンターなど利用。

●事業内容／幼稚園児と小学1・2年生を対象としたサッカー教室。かけっこ塾では常時60～70人の小学生が参加。その記録会も開催予定。石川県の総合スポーツセンターではクラブレッツさんと一緒に週6教室を開催。



お問い合わせ

石川県金沢市長町1-3-40 NPO法人i-ねっと内
TEL 076-232-6673 FAX 076-232-6674
URL http://www.maniex.com/kanazawa-sougou-sc/

NPO法人 石川県茅葺き文化研究会（略称 茅文研）

〒920-0861 金沢市三社町1-16
TEL 076-265-5575 E-mail kayabunken@m2.spacelan.ne.jp

茅葺き民家を活かすのも手仕事です。

茅葺き民家は、景観的にも美しいものです。田畑の向こうに、四季の彩りを添える山並みがあり、裾に居並ぶ集落の中に律儀な台形をした茅葺き屋根の姿を見つけると、ほっとします。

その屋根材は、ススキやヨシやササなど天然の草ながら、活用を通して合理的なエネルギー循環性能を発揮する優れたものなのです。そして冬の情景と春夏秋の快適さと人間への優しさは、まさに世界に誇れる日本のブランド環境です。

だからもう、1棟も失いたくないのですが…。今は日本中で十数万棟、石川県では200棟ぐらいかと思われまます。皆さんは初耳かもしれませんが、オランダなどでは現在茅葺き建物ブーム（造形美も込めて新築）で、あるいはイギリスには国立の茅葺き学校もありまして。でも20～30年前は今の日本のように減少の一途だったそうで、みんなで必死に手助けをして支えた成果がようやく実って再評価に結びついたようです。

カヤ[茅・萱]とは

屋根を葺くときに使う草の総称を言います。ススキやヨシ、イネワラなど是有名ですが、ササで葺く地方もあります。使用する種類によって屋根の印象はまったく違います。

イネワラなどは柔らかい印象になりますし、ヨシなどで葺くと硬い感じになります。また屋根の形によっても印象が違いますので、茅葺き屋根を見る機会があれば、比べてみるといいでしょう。



茅葺き作業風景

やはり私たちは、茅葺き屋根は「ところをつなぐ」ものだと思っています。日本が世界に誇ることでできる技術と、美しさにこだわる職人的感性によって受け継がれてきた里山景観が、つい数十年前まであり、何とその何倍もの年月をつなぎ続けてきたわけですね。とても大きな時間の流れが、茅葺き民家の良さを見守ってきたのです。

金沢の湯涌に茅葺き農家3棟が移築整備されています。囲炉裏端で昔語りや、音楽会や手づくり講座などの企画をしたり、茅葺き体験や茅刈りなどを手伝ってください。能登には住んでおられる茅葺き民家もあり、もっと知恵を出し合いたいと思います。また、調査・記録を通して全国的な保存活用交流もあります。みんなのものとして、すてきな茅を一本ずつ育てたり葺いてみたりのNPO会員に、よろしければ是非。

専務理事 坂本善昭

能登復興いやさかフォーラム

〒926-0804 石川県七尾市生駒町16番地4
株式会社御蔵川内 TEL 0767-52-8900

能登復興いやさかフォーラムの設立

昨年3月に発生した地震により、ただでさえ衰退が進む能登にあって、各産業への甚大な被害により、衰退に一層の拍車をかけることとなりました。

そのような中、能登に暮らす私たち一人ひとりが、地域の中で安全・安心な暮らしへの思いを語り、能登の将来像を描き、自らの意思によって活動を興すべく、地域づくりに取り組む若手メンバーを中心に『能登復興いやさかフォーラム』を設立しました。

本フォーラムでは、能登半島各地にある地域づくりの活動を有機的につなぎ、育て、「つぶやきを形に、思いを現実に変える」ため、行政や関係機関と協働しながら、住民が主体となった地域づくりを活性化させていくプラットフォームとして、また、被害を受けた人々が生活を取り戻し、能登に住む者が自らの地域課題を解決しながら、将来への希望の光を灯していくことを目的としています。

広がるいやさかフォーラムの活動

いやさかフォーラムが掲げる「おこす・よりそう・つなぐ・つたえる・かんがえる」の5つの基本事業を活動概念の柱とし、メンバーがそれぞれの地域で取り組む「地域づくり」への情報交換や提言を行っています。

いやさかとは

「いよいよ栄える」という意味で、能登各地の祭りや、神輿やキリコ・杵旗などを頭上高くに差し上げるときに、一同がところをひとつにする際の掛け声として祈りを込めて使われる言葉。

また、災害ボランティアに参加いただいた方々への「ありがとうメッセージ」を伝えるため、広報誌「Re:のと半島」を発行し、全国の社会福祉協議会を通じて1万部を送付、感謝の心とともに復興に向けての取り組みを紹介しました。

さらに、地元・能登のみならず、広く全国で復興に向けた取り組みを紹介すべく、下記の事業にメンバーが参加し、県外でも広くPR活動を行っています。

- ◆防災とボランティアのつどい/平成20年1月
内閣府主催 東京都丸の内
「行幸地下ギャラリー・スクエア」で開催
- ◆防災フェア2008/平成20年8月
内閣府・さいたま市・防災推進協議会主催
さいたま市で開催
- ◆能登を語る夕べ/平成20年10月
「Buy能登、Visit能登キャンペーン」
市民活動センター神戸主催 神戸市で開催



▶平成20年8月に創刊された
広報誌「Re:のと半島」

新刊本・おすすめ本

紹介



コーナー

石川県NPO活動支援センターでは、NPO・ボランティアに関する様々な書籍を閲覧・貸出しています。



著 者：大熊由紀子
発 行：ぶどう社
定 価：1,680円
発行年月：2008年4月

恋するようにボランティアを～優しき挑戦者たち～
「やる気」「世直し」「手弁当」で活動し、社会を変えつつあるボランティア。医療、介護、子育て、自殺対策など、様々な分野で課題に取り組む優しき挑戦者たちをレポートする。

新・共感のマネジメント

企業の「マネジメント」「リーダーシップ」「マーケティング」の理論は、市民活動に応用できる。企業研修やコンサルティングで活躍する一方、市民活動にも多忙な筆者が、社会と人の心の変化をおさえた、NPO・ボランティアグループの組織運営を説く。



著 者：松本修一
発 行：社会福祉法人
大阪ボランティア協会
定 価：1,155円
初 版：2008年3月20日



著 者：高原 稔
発 行：日本地域社会研究所
定 価：2,100円
出 版：2007年12月7日

市民シンクタンクのすすめ

市民が主役の時代。地域自治を支える市民調査の心構えやノウハウを初公開！地域に帰って、地域のためにつくそう！誰でも一人でも実践できるソーシャルリサーチ入門書。

NPO法人ふるさと小松検定 『小松が大好き、街が大好き！』

ふるさとを知り、ふるさとから学ぶ

ご当地検定『ふるさと小松検定』は小松商業高校3年生により、テキストやドリル・検定問題が作成され、平成17年度より実施。この活動を通じてさらに郷土への愛を深め、地域とのつながりを広めるため、平成19年度よりNPO法人化を図る。

そのふるさと小松検定を楽しむツールがいろいろあります。まず一つ目は、生徒によって行われる『ふるさと小松検定の出前セミナー』商店街のオープンスペースや、市役所、高校、中学校、小学校など、依頼があればどこでも行います。そのセミナーを担当している綿 健太さん「小学校などでは、パワーポイントを使い○×問題をやります。そのチラシも作っています」受講者に合わせたセミナー



内容でとても判りやすいと評判。二つ目が生徒によって制作されたA4版かるた『ふるさと小松検定かるた』主に幼稚園などで使われています。「カルタも毎年変わるので絵を描いたり、貸し出しもしています」と事務局長の喜多俊弥さん。三つ目が『ふるさと小松検定スイーツ』こちらも生徒によってデザインされたパッケージ

のスイーツで、中にはふるさと小松検定の模擬問題が入っています。



チーズクッキーとチョコトリュフの2種類
(’08年3月現在)

人生の先輩方からいろいろ学べる

最初の検定実施の際にはやはり苦労もあったようで「1回目は知識不足で、検定を受けた方にアドバイスをうけて、皆で話し合って直していったそうです」と喜多さん。でも「今では中級、上級、英語編もできました。団体で受験してくれる小松市の企業もあります」回を重ねるごとに自信もついてきたようです。NPOに関わって感じたことを伺いました。「NPOを始めたことで、人生の先輩方々と会う機会が増えて、いろんな考え方があるんだなと思いました。まだ自分は高校生であり社会というものがわからな

くて、知識もまだ少ないと思うんです。だから話すにしても難しい言葉があったり(笑)、大人ってすごいと思いました」と喜多さん。そしてNPOを立ち上げるにあたって事務局員の清水麻衣さんは「やること全て初めてのことばかりで、NPO自体何も知らないところから入ったので、司法書士さんのところに行ってNPOのことを学んできたり、難しいことばかりでした」と語ってくれました。

現在の活動はどんな様子ですか?「NPOの事務局員は14名ですが、3年生になると選択の授業で小松検定があり、その中で担当に分かれて情報を集めて問題を作成したり、カルタを作ったり、セミナーをしったりしています。総勢で40名以上になります。就職活動や部活、これから体育祭もあるので大変ですけど、やりがいを感じます」と喜多さん。頼もしい事務局長です。

小松検定で、小松市の認知度をもっと上げる

最後に卒業までの目標を尋ねました。喜多さんは「自分も小松市民でありながら全然知らないことがたくさんありました。なので、自分たちの活動を見て興味を持つ人がいて、小松のことを学び、小松って面白いなって思ってもらえたら嬉しいし、この活動やっていて良かったなって思います」清水さんは「もちろん検定で文化とか歴史も知ってもらいたいと思うけど、それプラス、私達の手で市民の皆さんと一緒にこれからの小松をよりよくできないかを考えていきたいです」綿さんは「小松検定をもっとどんどんアピールして、小松を全国に知ってもらって観光客を増やしたいです」と小松のPRを今後の目標に掲げていました。

▶左から事務局員の清水麻衣さん、事務局長の喜多俊弥さん
セミナー&web担当の綿 健太さん



第4回 ふるさと小松検定 開催のご案内

実施日・・・平成20年11月1日(土)
申込期間・・・平成20年10月24日(金)まで
(※土日・祝日は除く)
実施種目・・・初級編、中級編、上級編、英語編
※詳しくは下記までお問い合わせください

NPO法人 ふるさと小松検定
〒923-8555 小松市希望丘 10 番地
石川県立小松商業高等学校
TEL0761-47-3221 FAX0761-47-8038

シリーズ NPO 会議術② 『会議の土俵をつくりましょう』

川への祈り実行委員会事務局長 森山 奈美

このシリーズでは、主に参加のプログラムデザインに注目して、NPOに不可欠な「会議」を実あるものにヒントを考えていきます。今回は、会議をするときのちょっとした工夫についてお話しします。

一つ、何はなくともホワイトボード

みなさんの会議は、どんな場所でやりますか。会議の場づくりを考えるときに大事なのが、**レイアウトを自由に換えられる**ということです。参加者が8名しかいないのに、広い会議室でロの字型に机を並べたまま会議をしてしまい、話が遠くなって参加の度合いが低くなったという経験はありませんか?参加者が少ないなら、テーブルを近づけて距離を縮めるということは、実は議論の中身にも関係する大切なことです。

また、ホワイトボードのある部屋を選ぶことも大切

です。なければ、壁に模造紙などを貼っても良いでしょう。**議論の流れやタイムスケジュールを「見える化」**することで話し合いの質が高まります。人数が少なければ、テーブルの上に少し大きめの紙を広げてサインペンで書きながら進めてもOKです。とにかく、話し合いを目で見えるようにしましょう。



一つ、時間を意識して会議をすすめよう

せっかく「見える化」ツールを使っているのですから、その日に**審議する内容について、時間配分を書き出して**おきましょう。議題の内容を確認することにもなりますし、1つの議題が終わるごとに、議題を赤線で消していけば、会議の達成感も高まります。ちなみに、**会議の始まる時間も定刻を厳守**しましょう。よく「〇〇時間」などと言って、集合時間が守られない

土地柄ということもあると思います。たしかに、NPOの会議に出る人は、他のお仕事忙しい方や、その他の会議に出なければいけない方が多いため、開始時間に遅れてしまう人が多いのではないのでしょうか。ですが、同じミッションに向かって活動する仲間ですから、定刻に集まっているメンバーに迷惑をかけないためにも、会議は定刻開始という風土をつくりましょう。

一つ、「ファシリテーター」をご存知ですか?

創造的な会議を進めるために欠かせない「ファシリテーター」という役割をご存知ですか。一般的に、ファシリテートとは「推進する」「促進する」といった意味を持っています。参加型の会議を進めるときに、議長とは別にファシリテーターを置くことでスムーズに議事が進みます。ファシリテーターは、単なる進行役や司会ではありません。議論を活性化させ、会議の参加者が結論を導き出すための手助けをします。ただし、結論を恣意的に導くことはしません。結果はコントロールせずに、プロセスをコントロールするのです。

NPOの運営に深く関わっている人は、その会議の議題に対する意見をはっきりと持っていますし、言った意

見に対する責任も行動もきちんと取ります。そのこと自体は、とても良いことなのですが、そういう人が議論を進めると、ついつい自分の意見をたくさん言ってしまう、特定の人の意見に議論が引っ張られてしまうことがあります。**ファシリテーターの大切な要素は「中立」**です。自分の意見を持たないということではありません。あくまで、役割の上では、自分の意見も他のメンバーの意見も同等に扱うのです。ファシリテーターは、会議に参加するメンバーの意見を引き出し、議論を活性化させて、合意に導くという役割があります。このファシリテーターが身につけるべきスキルについては、次号で紹介したいと思います。



一つ、会議の土俵づくり

このように、会議の「空間づくり」「時間管理」「役割設定」を行うことは、毎回の会議を実のあるものにするために不可欠な「土俵づくり」です。これはNPOに限らず、会社の会議でも応用できることですが、参加するメンバー一人一人の意見を大切に扱い、民主的に運営

するNPOでは、特に入念に行うべき準備です。ぜひ、あなたのNPOでも、ホワイトボードでの見える化や、議長とファシリテーターを分けることを実践してみてください。少しの工夫で、驚くほど会議がスムーズに進むことでしょう。

INFORMATION

県からのお知らせ

『NPO出会い空間 2008』

～みんなのチカラは社会のチカラ～

NPO・ボランティア活動や、起業、就農など、地域活動への積極的な参加をめざす県民のみなさまに、自分のあった活動の場“出会い空間”を提供します。

＜開催日時・場所＞

日 時 平成20年11月9日(日)13:30～16:30
場 所 石川県地場産業振興センター 本館大ホール
金沢市鞍月2丁目1番地

＜開催内容＞

- ・オープニング(13:30～13:40)
- ・NPO・ボランティア団体の活動紹介(13:40～14:20)
- ・記念講演 三屋裕子さん(元全日本バレーボール選手)
「人生のデザイナー ～新たな挑戦に向けて～」
(14:20～15:20)
- ・参加者とNPO・ボランティア団体との面談・交流
起業、就農などの支援相談 (13:40～16:30)
※記念講演のお申し込みにつきましては、下記までお問い合わせください

お申し込み
お問い合わせ

石川県県民文化局県民交流課
NPOボランティアグループ
TEL 076 -225 -1365
URL <http://www.ishikawa-npo.jp>
E-mail npo@pref.ishikawa.lg.jp

『NPO Day』のお知らせ

県民を対象に、NPO活動やボランティア活動などの社会貢献活動への積極的な参加を促進し、地域社会の活性化を図ることを目的に開催しています。

●NPOプチセミナー

NPOの活動実践例を分野ごとに紹介し、参加者同士の交流の機会を提供することにより、興味のある分野での市民活動参加のきっかけ・仲間づくりを目指します。

- 開催時間 18:30～21:00
- 定 員 各セミナー20名(参加費/無料)
- 内 容 「まちづくり」…平成20年10月29日(水)
講師／浦 淳 氏(趣都金澤)
「ボランティア」…平成20年12月17日(水)
講師／白石 真理恵氏(コネックス)
「環 境」…平成21年2月25日(水)
講師／成田 裕 氏(ガイア自然学校)

●NPOお役立ちセミナー

NPOの立ち上げ・運営に関する基礎知識を実践的に習得する場を提供します。

- 開催時間 18:30～21:00
- 定 員 各セミナー20名(参加費/無料)
- 内 容 「NPOの会計・税務について」…平成20年11月26日(水)
「NPOの労務・法務について」…平成21年1月28日(水)

「活動資金の調達について」…平成21年3月18日(水)

●NPOよろずサロン

NPOに関する具体的な個別相談に対応するため、「NPOよろずサロン」を開設します。

- 開催時期 平成20年3月25日まで(毎週水曜日 18:30～21:00)
※プチセミナー、お役立ちセミナー開催日を除きます。
- 相談料…無料
詳しくは、下記までお問い合わせください。

お申し込み
お問い合わせ

NPO法人いしかわ市民活動ネットワーク
キングセンター(i-ねっと)
〒920-0865 金沢市長町1-3-40
TEL 076-232-6673 FAX 076-232-6674
E-mail mail@ishikawanpo-inet.jp

『NPOマッチングボード』のお知らせ

NPO・ボランティア団体のスタッフやボランティアさんの募集情報を掲載しませんか。

石川県NPO活動支援センターの掲示板及びホームページに掲載したい団体はぜひともお問い合わせください。

お問い合わせ

石川県NPO活動支援センター
〒920-0962 金沢市広坂2丁目1-1
TEL 076-223-9558 FAX 076-223-9559
URL <http://www.ishikawa-npo.jp/riyou-matchingu.htm>

助成金ニュース

花王・みんなの森づくり活動助成

- 助成対象事業
プロジェクト助成(単年度助成)
・緑を守り育てる活動(森づくりの活動)に取り組んでいる団体が行う森づくりの活動のプロジェクトに対して助成します。

- スタートアップ助成(3年間継続助成)
・新たに緑を守り育てる活動(森づくりの活動)に取り組もうとする団体の運営と森づくりの活動に対して助成します。

- 助成対象団体
プロジェクト助成は、国内で森づくりの活動に取り組んでいる団体。
スタートアップ助成は、設立後1年未満の団体もしくは立ち上げを準備しているグループ。
- 助成額…上限100万円
(スタートアップは3年間で総額100万円を上限に助成)

- 応募受付期間
平成20年8月1日～平成20年10月31日

お申し込み
お問い合わせ

財団法人都市緑化基金
花王・みんなの森づくり活動助成係
〒102-0082 東京都千代田区一番町10
TEL 03-5275-2291 FAX 03-5275-2331
URL <http://www.urban.green.or.jp>

「長寿・子育て・障害者基金」助成事業

独立行政法人福祉医療機構では、高齢者や障害者の在宅

福祉、生きがい・健康づくり、子育て支援、青少年の非行防止や健全育成、障害者スポーツの振興などを行う団体を対象として、以下のとおり助成します。

- 助成対象区分
①長寿社会福祉基金
②高齢者・障害者福祉基金
③子育て支援基金
④障害者スポーツ支援基金
- 助成対象団体
助成事業の実施体制が整っている法人又は団体
- 助成額
上限500万円
- 応募受付期間
平成20年9月1日～平成20年10月31日

お申し込み
お問い合わせ

独立行政法人福祉医療機構
基金事業部振興課
TEL 03-3438-9946 FAX 03-3438-0218
<http://www.wam.go.jp/wam/>

キリン福祉財団平成20年度公募助成

- 助成対象事業
「地域における子育てに関わるボランティア活動」に対し助成いたします。
‘地域’‘子育て’‘ボランティア’をキーワードとし、地域における、子どもに関わる幅広い活動に対して助成いたします。
次に該当する事業は、「助成対象外」とします。

- ・人件費、事務所家賃
- ・備品、パソコン・コピー機等、組織運営のための日常的に使用する物品の購入
- ・専門家グループへの委託によるコンサート・演劇などの開催費
- ・外部委託が著しいコーディネーターの事業

- 助成対象団体
地域での子どもに関わる、福祉活動を目的とする民間団体で、4名以上のメンバーが中心となって活動するグループで、法人格の有無は問いません。
- 助成額
上限30万円 (総額3,500万円)
- 応募受付期間
平成20年9月8日～平成20年11月10日

お申し込み
お問い合わせ

財団法人キリン福祉財団
〒104-8288 東京都中央区新川2丁目10番1号
TEL 03-5540-3522 FAX 03-5540-3525

年賀寄附金配分事業

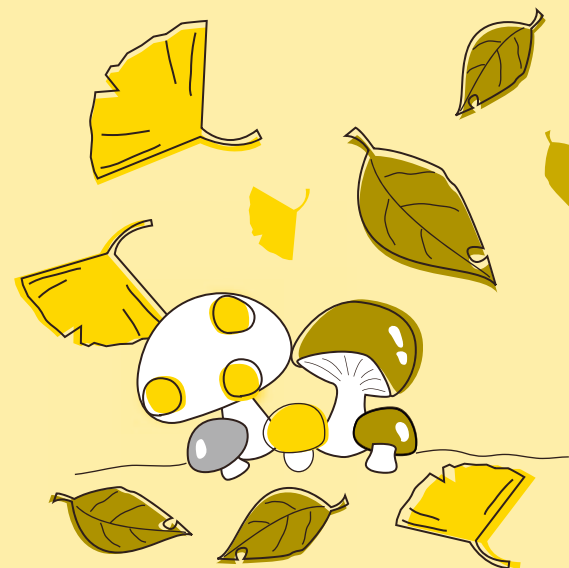
- 申請できる法人
以下の団体が助成申請できます。
(1)社会福祉法人
(2)更生保護法人
(3)民法34条による社団法人・財団法人
(4)特定非営利活動(NPO)法人 1年以上経過
申請は申請目的に係る事業を所管する大臣又は都道府県知事の意見書の添付が政令により求められています。従って申請にあたっては意見書を入手する必要があります。
- 申請できる事業分野
対象の事業分野は「お年玉付郵便葉書等に関する法律」により10の分野に定められています。団体は定款又は寄附行為に基づいて行うこれらの事業につき配分申請ができます。

- (1)社会福祉の増進を目的とする事業
- (2)風水害、震災等非常災害による被災者の救助又はこれらの災害の予防を行う事業
- (3)がん、結核、小児まひその他特殊な疾病の学術的研究、治療又は予防を行う事業
- (4)原子爆弾の被爆者に対する治療その他の援助を行う事業
- (5)交通事故の発生若しくは水難に際しての人命の応急的な救助又は交通事故の発生若しくは水難の防止を行う事業
- (6)文化財の保護を行う事業
- (7)青少年の健全な育成のための社会教育を行う事業
- (8)健康の保持増進を図るためにするスポーツの振興のための事業
- (9)開発途上にある海外の地域からの留学生又は研修生の援護を行う事業
- (10)地球環境の保全(本邦と本邦以外の地域にまたがって広範囲かつ大規模に生ずる環境の変化に係る環境の保全をいう。)を図るために行う事業

- 対象事業
(1)活動(一般プログラムあるいはチャレンジプログラム)
- (2)施設改修
- (3)機器購入
- (4)車両購入
一般活動は申請額50～500万円、チャレンジプログラムは50万円まで(4年連続可能)
- 応募受付期間 平成20年10月1日～平成20年11月30日

お問い合わせ

郵便事業株式会社 年賀寄附金事務局
〒100-8798 東京都千代田区霞が関1-3-2
TEL:03-3504-4401 FAX:03-3592-7620
URL: <http://www.post.japanpost.jp/kifu/>
【事務局受付時間】
土日祝日を除く、10:00～12:00および
13:00～17:00まで



●本誌に関するご意見、ご要望をお寄せください。
お寄せいただいたご意見は、制作に生かすほか、
本誌に掲載してまいりたいと考えています

石川県NPO活動支援センター

〒920-0962 金沢市広坂2-1-1
石川県広坂庁舎 4階
TEL 076-223-9558 FAX 076-223-9559

URL <http://www.ishikawa-npo.jp>
E-mail npo@pref.ishikawa.lg.jp



石川県内でボランティア活動、NPO 活動に参加し、活躍している学生みなさんの声を集めて紹介するコーナー『ジュニア VOICE』

第2回目となる今回は、大学生を中心に小学生を対象にした活動を行っている「学生ノートック」メンバーの方々に話をうかがいました。

企画から運営まで、すべて自分達で！！



今回お話を伺った『学生ノートック』メンバー皆さん
(左から土田行美さん、代表の中野綾乃さん、中田早希さん)



みんなが一つの目標に向かって 作り上げていくことが楽しい。

——『学生ノートック』について教えてください。

中野さん●団体の活動としては、去年の5月18日に設立したので約1年半になります。

中田さん●学生が運営するCO-NEXT(コネックス/学生と、ボランティアを必要としている人とを結ぶボランティアコーディネイト活動をしている団体)と一緒に活動しているうちに“子ども向けのボランティアをしている団体は少ない”ということがわかりました。「子ども向けのボランティアをしていきたい。」ということを伝えたら「じゃあ、イベントを一から始めてみませんか？」ということになり、そこで、募集をかけて集まった何人かで始めたのがきっかけです。

土田さん●現在の活動人数としては17名。OBも含めると21名ぐらいになります。中心が金沢工業大学で、石川県立大学、金城短大、北陸大学、金沢大学などの学生がメンバーです。



子ども達が喜ぶので、 お父さんやお母さん方も協力的。

——学生さんにお子さんを預けるのが不安だという親御さんはいませんか？

中野さん●本当は不安なのかもしれないですけど、子どもたちが、コミュニケーションを取りながら友達を作ったり、野外での活動を学んだりできるということで、お父さんや、お母さんは参加に協力的だし、「子どもが楽しかったからまた行きたいって言ってます」っていうメールがお母さんから届くので「あ～よかったなあ～」って。

中田さん●あと、絶対ではないんですが、消防署で行なっている救命救急講習を受けることと、他の団体にも参加してレクレーションの方法や遊び方、子どもに関する知識等をメンバー全員学ぶようにしています。

——これからの課題や、「こうしたいなあ」と思うことありますか？

中野さん●やはり、人集め。メンバーが就職活動などで忙しくなってくるので、3年生以下で、やる気のある学生が欲しいです。子ども向けの団体が少ないので、他の団体との交流というのがなく、団体内だけで成長に限界があるので、外部と交流することでいい刺激を受けることができると思うので、これからは必要なと思います。

中田さん●「こうしたい！」という意欲は強いので他と違う新たな企画も作って行きたい。

土田さん●「行きたい！参加したい！」という子も増えてきてるんだけど、人数に制限があるので、全員受け入れられないのがつらいです。

中野さん●今は先着順での受付方法なので、もう少し平等に参加できるような方法も考えていきたいです。



【活動内容】

- 春・夏のお泊まりキャンプ
- 森林公園での1日体験野外炊飯

◀自分専用！宝箱づくり

●中央公園での合同学園祭/子ども向けブースの出店



▲賢者の森を制覇！
◀遊ぶぞ！砂の王国



【お問い合わせ】 学生ノートック

E-mail no_tokku@yahoo.co.jp

URL <http://www.no-tokku.org>